

## 記入例①：地域連携型ビジネス創出プロジェクト

### 【発表タイトル】

地域の魅力を発信！学生による観光ビジネス提案プロジェクト

### 【授業等の名称】

地域活性ビジネス演習

### 【授業等の概要（授業の位置づけに関して）】

3年次配当の地域連携型授業で、課題解決型学習（PBL）を導入。学生が実際の地域課題を調査・分析し、観光商品やサービスとして再設計・提案するプロセスを通じて、主体性や課題解決力、情報発信力などの社会人基礎力を実践的に育成する。加えて、地域社会との関わりを持ち、自ら学ぶ姿勢や公共的視点を養うことも重視した演習形式の授業である。

### 【授業等の位置づけ】

授業

### 【授業等のタイプ】

選択

### 【活動の概要（学生の活動内容に関して）】

地域に眠る観光資源や既存の魅力を学生目線で再発見・再定義し、それらを活かした体験型観光商品として新たに価値づけを行うプロジェクト。現地でのヒアリングやフィールドワーク、地域住民・団体との意見交換を重ね、観光客視点に立脚した課題解決型の提案をチーム単位で検討。企画書やプレゼン資料を作成し、行政や観光協会に対して成果を発表した。

### 【活動期間（授業のスケジュール）】

2024年4月～2024年12月

### 【学生の活動参加人数】

12

### 【①社会人基礎力の発揮】

地域課題に対して主体的に取り組む姿勢を持ち、情報収集から提案・発表に至る一連の過程で、社会人基礎力を実践的に活用。関係者とのやりとりを通じて報・連・相を徹底し、「発信力」や「状況把握力」を意識しながら、課題を自分ごととして捉えたうえで、相手の立場や視点を踏まえた伝え方に工夫を凝らし、成果に繋がる提案を導き出すことができた。

### 【②前に踏み出す力の成長】

活動当初は自分の意見を言葉にすることや、関係者との対話に対して不安を感じる学生も多かったが、何度も現地に足を運び、対話や発信の機会を重ねる中で、次第に自信と行動力が芽生えた。「主体性」を発揮しながら、後半には自ら電話やメールで情報を収集したり、「働きかけ力」を活かして企画内容を関係者に提案するなど、積極的な行動が見られるようになった。

### 【③考え抜く力の成長】

現地で得られた定性的データやアンケート調査などをもとに、観光客が本当に求める価値は何かを深く掘り下げて考察。安易な提案に陥ることなく、複数の仮説を立てて検証し、再構成するプロセスを通じて、「課題発見力」や「計画力」を高めた。論理的思考力と創造的思考力の両方を磨きながら、最終的に納得度の高い提案へと結実させるまで、思考を止めなかった。

### 【④チームで働く力の成長】

初期段階ではメンバー間での意見の対立や温度差もあったが、日々のミーティングや役割分担を通じて互いの得意不得意を理解し、信頼関係を築くことができた。「柔軟性」や「傾聴力」を意識しながら意見交換を行い、意見の違いが生じた際には対話を重ねて折衷案を見出し、納得感のある合意形成に繋げる力を高めていった。

### 【⑤このプロジェクトで学んだこと】

教室内の学びでは得られないリアルな課題と向き合うことで、実社会で求められる力と、理論とのギャップを体感。柔軟に考え、仲間と協力しながら前に進む力を実践的に学ぶことができた。地域と関わり合いながら価値を共創する経験を通じて、自身の将来像がより明確になり、「地域と共に働く」という新たな職業観が芽生えた。

### 【プレゼン時間があつたらもっと説明したいこと】

ここまでの項目で書き切れなかった取り組みや成果など自由に記載してください